

実践の考察

考察の視点

本研究では、学習状況調査の結果から見える課題の解決を目的として、児童の実態を把握し、授業改善の手立てを講じた授業実践に取り組んできました。そこで、以下の3点を視点に授業実践を考察します。

- ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているか
- イ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているか
- ウ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているか

ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているか

社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力が付いてきているかについては、実践事例2（第6学年「町人の文化と新しい学問」）の第5時と第7時のワークシートの記述を基に考察します。

総合的に考える力については、第5時のまとめの記述の中に、江戸時代の文化、蘭学、国学のそれぞれの特徴についての記述がいくつ含まれているかで判断しました。また、多面的に考える力については、第7時の自分の考えの記述の中に、江戸時代の文化や学問の特徴について3つの分野を比較したことを自分の言葉で書くことができたかどうかで判断しました。

以上の判断する目安を基に、児童のワークシートの記述を分析してみると、表1のようになりました。授業で取り上げた3つの分野の特徴について記述でき、比較したことを自分の言葉で記述できた児童は50%にとどまりました。しかし、授業前に実施した、県調査の結果を基に作成した実態調査問題の分析結果と比べてみると、複数の資料から分かることを整理し、社会的事象の意味を総合的に考える設問の正答率が12.1%であったのに対して、37.9ポイント増加していました。このことから、手立ての有効性については課題が残りますが、多面的、総合的に考える力が付いてきていることがうかがえます。

表1 児童のワークシートの分析結果

第5時 \ 第7時	×	○	合計
3つ	15	50	65
2つ	6	15	21
1つ	6	6	12
記述なし	0	2	2
合計	27	73	100

数値は%で表示しています。 n=33

実践事例2（第6学年「町人の文化と新しい学問」）より

【判断する目安】

第5時：江戸時代の文化、蘭学、国学の特徴のうち、まとめの記述に含まれる数
第7時：江戸時代の文化、学問の特徴について3つの分野を比較したことを自分の言葉で書けていた…○、書けていない…×

イ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているか

習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているかについては、実践事例3（はたらく人とわたしたちのくらしー店ではたらく人ー）の第14時のワークシートを基に考察します。

実践事例3では、学習問題Ⅱ「調べたスーパーマーケットにもっとお客さんが来るためには、『安さ』と『新鮮さ』のどちらを先に取り組んだ方がいいか考えよう」について討論会をしました。14時のワークシートには、討論会後の自分の考えを記述させました。

習得した知識を活用していたかどうかは、その記述の中に、学習したことが含まれていたかどうかで判断しました。また社会的事象の意味について論述できたかどうかについては、3年生であったことから、社会的事象の意味を社会的事象の特色や相互の関連、つまり、販売者の工夫と消費者の願いとの関連と捉え、これらが根拠を示して論述できたかで判断しました。

その結果、88.9%の児童が論述することができていました。この単元を通して、児童は社会的事象の意味について、分かったことや考えたことを根拠を明確にして論述できてきたと考えます。

ウ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているか

思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力が付いてきているかについては、実践事例1（第6学年「新しい日本、平和な日本へ」）の単元の評価テストの結果を基に考察します。

実践事例1では、基礎的な知識を身に付けながら、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かることを目標にしていました。

授業改善の手立てを講じていない前単元後と授業改善の手立てを講じた本単元後に、以下のように単元の評価テストを行いました。その結果が図1です。

- ・評価の観点：社会的事象についての知識・理解
- ・問題数(総点)：15問(150点満点)
- ・到達基準の設定：十分達成…95.0、おおむね達成…70.0
- ・評価：十分達成の到達基準以上…A

おおむね達成の到達基準以上、十分達成の到達基準未満…B

おおむね達成の到達基準未満…C

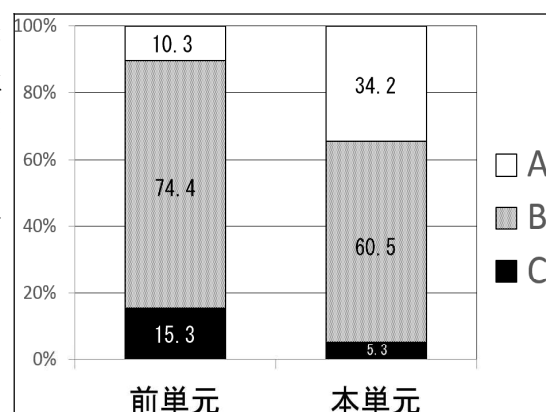


図1 単元の評価テストの結果比較
数値は%で表示しています。 n=39

児童の社会的事象についての知識・理解について、図1を見ると、Cと判断される児童が前単元の15.3ポイントから5.3ポイントに、10.0ポイント減少し、Aと判断される児童が前単元の10.3ポイントから34.2ポイントに23.9ポイント増加しています。これらのことから、調査内容に違いはありますが、基礎的な知識を効果的に身に付けることができるようになっていることがうかがえます。

以上のことから、2年次研究に向けた課題は残るものの、学習状況調査から見える課題を解決する授業改善策としての効果がうかがえました。